

第8回静岡国際オペラコンクールが、11月11日から19日までの9日間にわたり、アクトシティ浜松大ホールで開催されます。

「オペラ」ってなんだろう？簡単に言ってしまえば、歌を歌いながら劇を演じるもの。オーケストラが伴奏し、舞台には建物や背景があり、衣装を着て歌い演じる、音楽・美術・建築・衣装・メイク・演出・照明など、さまざまなプロフェッショナルが集まった総合芸術といえるでしょう。

オペラ歌手の登竜門として、3年に1回浜松で開催されているのが「静岡国際オペラコンクール」です。実際にオペラの舞台に立っている人や、これから有名になりたいという意欲のある人が、世界中からやってきます。3月には、浜松駅のバスターミナルから良く見えるアクトシティ浜松の壁面に、大きなポスターが張られました。気づいた人もいるかもしれません。



(第7回コンクール第1位 嶋原奈美さん)

コンクール参加承認者決まる！

今年の1月4日から5月1日の約4ヶ月間、コンクール参加者の応募を受け付けました。その結果、22の国と地域から191名の応募がありました。全員の歌声をコンクール会場で聴くことはできないので、まず「予備審査」を行って、浜松に来てもらう参加承認者を決めます。

「予備審査」って？

応募者は、自分の「勝負曲」を2曲提出します。これは「オペラアリア」に限られます。この2曲を審査委員が聴き、コンクールを受けるにふさわしいと思った人を選びます。これが「予備審査」です。この様子は新聞にも載っていたので、見た人もあるのではないのでしょうか。「予備審査」を通過できたのは、10ヶ国の73名。約3分の1に絞り込まれました。

オペラ豆知識 その1「アリア」とは…

基本的に1人で歌います。その時の感情を表すことが多いです。誰かに告白したり、1人悩んだり。作曲家も気合を入れて作曲します。有名なアリアはたくさんありますが、日本人になじみのあるアリアは、「ある晴れた日に」でしょう。プッチーニの作曲した「蝶々夫人」というオペラに出てきます。長崎を舞台にした、アメリカ軍人と日本人女性との恋愛悲劇を描いたもので、ソプラノ歌手によるアリアの名曲です。